

年

頭

所

感



第一に、村上真幸副会長
が中心となって進めている
自主研究会「測量近代化研

「ここ数年、コロナ禍への
対応に追われ、新機軸の活
動を企画し、実行するだけ
の十分な余裕がありません
でした。しかし、会員の皆
さまのお力をお借りしなが
ら、少しずつ新たな活動を
立ち上げています。二つの
活動を紹介します。」

活動全般を再編・強化

日本測量協会

会長 清水 英範

「研究会はこれら
の課題を整理し、準則のあ
るべき姿を具体的に提示し
ようとしています。当協会
は日本学術会議から協力学
術研究団体に指定された、

「空間情報総括監理技術
者をめざす人のための技術
士取得支援セミナー」です。
当協会では、空間情報総括
監理（空総監）技術者の資
格試験において、技術士ま

研究会」です。公共測量の
「作業規程の準則」には、
新技術に対応するべく拡充
されてきた過程で過度に複
雑化してしまつたなど、改
善すべき課題もあるように

いわゆる学会でもありま
す。研究会の活動が当協会
の学会機能の強化に繋がる
ことを期待しています。
第二に、瀬戸島政博副会
長が中心となって進めてい

たは博士であることを受験
のための必須要件の一つと
することを決め、2026
年度から実施する予定で
す。当セミナーはこれを受
けて企画したものです。技
術士資格を有する測量士の
増加、空総監技術者の社会
的地位の一層の向上に繋
がることを期待していま
す。

今年、これらの活動を
充実させるとともに、測量
界への時代や社会の要請を
踏まえ、活動全般のさらな
る再編・強化に努めていき
たいと思います。」